

技術領域

科学技術の進歩・発展、技術の教育史に基づいて、技術教育の理念を追究し、技術の教授方法、教材開発を実践的に研究します。技術教育、機械、電気、情報、加工及び栽培の各専門領域の研究を通して、教育学、教育心理学、技術学・工学の理論的及び実践的能力を養成します。



修士論文

- 「エネルギー変換」と「プログラムによる計測・制御」を融合した学習指導法に関する実践研究
- 日本とスロベニアの中高生の意識からみた情報教育カリキュラムの国際比較研究
- プラレールを計測制御するScratchベース教材の開発と授業実践

専任教員の研究・教育の概要

楠元 一臣

【金属加工・機械】

金属加工と機械の教育及び研究を行っています。特にプラズマやレーザーを利用した金属材料の溶接・切断・表面加工分野を主に研究しています。これまでの工学的研究成果を活用して中高生向けの教材開発研究をはじめ、3Dプリンタ等を用いた「ものづくり授業」を行います。それらを基にした「ものづくり啓蒙活動」を地域に展開していきます。

古田 貴久

【情報】

大学院の授業では、コンピュータなどの情報機器を応用した教材や授業の開発や、統計解析に関する講義と演習を扱っています。研究では、中学校の先生と共同で、本研究室で開発した技術の「計測と制御」単元の教材・教具を、生徒がプログラムを書いて自動制御する、というカリキュラムの実践を通じて、生徒の技能や意欲の評価や、情報に対する意識の影響を調べています。

小熊 良一

【技術科・情報科教育】

技術教育と情報教育の小中高の体系化について他教科の指導内容との関連を踏まえながら研究を進めています。現在は、義務教育段階における情報モラル教育及び情報セキュリティ教育を主なテーマとして研究を進めています。授業では、技術教育の意義と共に小学校そして高校に繋がるような中学校技術教育の指導方法と、そのための有効な教材作成を主な検討対象とします。

片柳 雄大

【電気・技術科教育】

電気に関することを幅広く研究していますが、電気化学的な視点からの燃料電池研究が専門です。また、電気化学センサーなどの研究も行っています。現在は、中学校技術科におけるエネルギー変換教材の研究・開発に力を入れています。授業では、電気エネルギーと他のエネルギーとの相互変換についてや、電気・電子応用機器のしくみ、情報通信媒体としての電気など、電気と技術に関する内容を幅広く扱います。

芸術・表現コース

音楽領域

声楽、器楽、作曲の各分野にわたる専門研究を基盤とし、音楽教育の理論と実践の深化を志向する研究・教育を行い、音楽教育を総合的に追求します。

また、国際化時代に対応すべく、西洋音楽のみならず日本音楽、民族音楽をも含めたグローバルな視野をもつ音楽科教員としての能力を養成します。



修士論文

- 台湾における音楽教育と統合学習領域「芸術と人文」について
－台湾の小学校における実践事例と我が国の音楽科教育への示唆－
- ポピュラー音楽教材化への指標 －J-POPと中学校共通教材の比較分析を通して－
- 中学校音楽科におけるオペラ実践の研究 －演劇的要素の効果をを通して－

専任教員の研究・教育の概要

吉田 秀文

【音楽科教育】

音楽教育の諸課題を周辺学問領域である心理学や社会学を中心に研究しています。現在は、子どもの学習意欲向上や生涯発達の見点から音楽学習を再検討することを主眼に追究しています。授業では、音楽教育学の理論を文献講義を通して学習したり、学校教育現場における課題を見つけ、それを様々な先行研究をもとに調査を行い、議論します。また、修士論文の作成に向けて、学校教育現場に実際に赴いて実践を行い、理論的枠組みの検証と展望を行います。

中里 南子

【音楽科教育】

日本音楽における装飾的旋律の機能に着目し、日本古来の装飾的旋律が後世の音楽の歌の中で、どのように文化変容を起し、受け継がれているかを研究しています。授業では、文献講義を通して、現代の音楽教育における日本音楽の様式理解や、旋律の捉え方、更には日本音楽の指導の在り方を考えていきます。そして、音楽科教育における今日の研究動向を見つめながら、教育現場の課題解決に向けて論考していきます。

山崎 法子 【声乐】	ドイツ歌曲を中心に研究しています。特に、詩と音楽の関わりについて分析的に研究し、作品理解を深めることで演奏法の可能性を見出します。授業ではこの研究方法をもとに、演奏を通して諸外国の作品の理解に踏み込みます。作曲家の意図を楽譜から読みとり、それを体現していくことは、演奏技術を高めるだけでなく、教材研究を深耕するための手立てとなると考えています。
三國 正樹 【器楽】 ピアノ	ピアノ演奏法が研究分野です。特にバロック・古典派の演奏法はあらゆるピアノ作品演奏の基本となるものなので、楽譜の読み方について研究を行っています。演奏会のプログラムのあり方も重要な研究テーマで、「連続プログラム」などを実践してきました。授業では現代の器楽分野における演奏法・指導法のさまざまな問題を検討しています。
菅生 千穂 【器楽】 クラリネット	古典派から近現代の主要なクラリネット作品を中心に、楽器や様式の歴史の変遷、現代の演奏の在り方について、演奏を通して研究しています。室内楽、吹奏楽、管弦楽、同属アンサンブル等異なる演奏形態におけるクラリネットの役割や可能性についても探求しています。授業ではクラリネットに限らず、学校音楽の場で必要となる管楽器や箏など和楽器の、教材・教具としての可能性を実践的に学び、教員としての資質向上をめざします。
西田 直嗣 【作曲】	作曲研究は作曲と音楽理論に大別されます。作曲については、音楽教育における創作指導の原点が自ら創作を行う事であることを踏まえて、創造する事の意味を考察しながら自らの音楽世界の構築に取り組みます。音楽理論については、社会における音楽芸術の必要性について考察しながら、和声、対位法など音楽理論の学習、様々な時代の楽曲研究・授業研究を行い、鑑賞教育の可能性の探求、および音楽教育における音楽理論学習についての研究に繋げてゆきます。

美術領域

美術科教育及び美術の各分野（絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史及び美術理論）についての専門的研究を深めるとともに、理論的、実践的な研究を行います。また、それによって修得した知識と技能を美術教育に生かし、指導的な役割を果たすことのできる能力を養成します。



修士論文

- 「試行錯誤」する時間の価値 — 彫刻家の仕事を手掛かりにして —
- 中学校美術科教育に於けるアートプロジェクト型学習に関する一考察
- アートプロジェクトにおける食を通じた学びの一考察 — 上毛電鉄ごちそうアートトレインの事例を基に —

専任教員の研究・教育の概要

喜多村徹雄 【絵画】	安定／不安定などの観点から、絵画の表現に根を持ちつつ立体を混在させた仮設の状況を創り出すインスタレーション表現の実践的研究・検証をしています。また特定の状況や地域資源を活用したプロジェクト活動も行っています。授業では、20世紀以降の絵画表現の歴史の変遷を概観すると共に同時代の表現の多様性について知見を深め、表現することの社会的価値や学校教育における美術教育の意義および可能性について検討します。
林 耕史 【彫刻】	彫刻のもつ立体造形としての意味と可能性を、実制作を通して検証、研究しています。主に木を材料とした彫刻制作を行い、空間及び社会への作用を考察するインスタレーションも試行しています。授業では、彫刻の歴史の変遷を作品鑑賞や文献調査により概観するとともに、材料・技法に関して研究します。その上で造形美術教育の観点で彫刻を位置づけ、それを通して図画工作科・美術科の教育の在り方を検討します。
齋江 貴志 【デザイン】	プロダクトデザインの立場から、デザインにおける基礎造形の研究を主に行って来ました。また近年は、造形だけでなく、中山間地域の地域振興をデザインの視点から実践的な活動のもと研究しています。授業では、今後の図画工作科・美術科におけるデザイン分野の教育を深く考えていくために必要な、近代からの流れを知ること、また、デザインを創造するための思考方法として捉え、教科や題材のあり方について考えてもらいます。
春原 史寛 【美術史・美術理論】	日本近現代美術史について、その受容の諸側面やサブカルチャーとの関連性、教育の役割について主に研究しています。特に戦後日本において「美術」や「芸術」に社会が期待した役割や、人々が抱いた「芸術家」のイメージの実相を明らかにしたいと考えています。それら成果をもとに現在の鑑賞教育の充実の方法を検討し、小学校図画工作科・中学校美術科教育における美術史と美術館、地域文化資源の活用について研究・教育を行っています。
茂木 一司 【美術教育】	学校(小学校図画工作・中学校美術科)と学校外の美術・芸術教育をつなぐために、協同的な学びとしてのワークショップ(型学習)を基礎にし、障害者、高齢者、異文化等を背景に持つ人々を対象にしたインクルーシブアート教育の構築を進めています。授業では、リサーチに必要な基本的な学修の他、大学外(美術館等)でのアートプロジェクトを活用するなど、地域や他領域(医療・福祉など)との接続/越境を考慮した実践的研究に取り組んでいます。
郡司 明子 【美術教育】	からだ・気づき・対話を重視した学びをアート教育と捉え、幼・小・中学校等での実践化に向けて研究を進めています。身体性の基礎研究をはじめ、「生」=衣食住に基づく具体的な題材の提案と共に、協働して学ぶやわらかい空間での授業づくり(図画工作科・美術科)を目指しています。実践を支える理論として、レジジョ・エミリア・アプローチ等に学び、生活や社会につながるこれからの美術教育のあり方を探っています。